



湖南ギターアンサンブル



第18回さざなみコンサート

第43回滋賀県芸術文化祭参加事業



2013年 10月 26日(土)

午後6時 開演

栗東芸術文化会館さくら中ホール



ご挨拶

本日はご来場くださいますありがとうございます。
湖南ギターアンサンブルは今年で結成24年を迎え、
この「さざなみコンサート」も18回目となります。
これだけ続きましたのも皆様のご支援のお陰と深く感謝申し上げます。

今宵、クラシックギターの音色をごゆっくりお楽しみいただければ幸いです。

主催：湖南ギターアンサンブル

URL：<http://homepage3.nifty.com/konanguitar>
毎週土曜日午後1時半から、守山エルセンター、第2
むつみ園で練習しています。

お問い合わせ先：鍋谷英明(代表) Tel/fax 077-552-9228

プログラム

司会 川人千暁

第1部

- 4重奏 ①ノクターン (作曲 F.F. ショパン、編曲 佐野正隆)
武村順子、山口瑞代、油谷由美子、辻井寿子
- 3重奏 ②この世の果て (作曲 A. ケント、編曲 加藤繁雄) 諏訪サチ子、東郷安弘、黒瀬由紀子
- ③アレグリアス (編集 伊藤シゲル、編曲 一井伸介) 森田義秀、高橋正樹、曾根紀久
- 2重奏 ④紫陽花 (作曲 リサフオン) 志村和彦、志村知子
- 2重奏 ⑤サウンド・オブ・ミュージック (作曲 R. ロジャース、編曲 高坂 勝)
藤本久美子、高坂勝
- 独 奏 ⑥練習曲第11番 (作曲 H. ヴィラ・ロボス) 塚野研一
- ⑦タランタス・イ・タラントス (編曲 西村兼太郎・一井伸介) 一井伸介
- 3重奏 ⑧タンゴ・アン・スカイ (作曲 R. ディアンス、編曲 鈴木 誠)
高橋正樹、武村順子、内藤悟
- 4重奏 ⑨ジェルソミーナ (作曲 N. ロータ、編曲 平倉信行)
小島信之、鍋谷英明、志村和彦、志村知子
- 笛・ギター・ベース 4重奏
- ⑩異邦人 (作曲 久保田早紀、編曲 一井伸介)
「カルテットEです」 坂井孝之、一井伸介、村井教夫、辻井寿子

休憩

第2部 ギター合奏

- ⑪スラブ舞曲第10番 (作曲 A. ドボルザーク、編曲 平社 保)
- ⑫アメリカ (作曲 L. バーンスタイン、編曲 S. Takemoto)
- ⑬トゥナイト (作曲 L. バーンスタイン、編曲 S. Takemoto)
- ⑭戦場のメリークリスマス (作曲 坂本 龍一、編曲 津田 昭治)
- ⑮ヴィクトリー (作曲 BOND、編曲 一井伸介)
- ⑯二人でお茶を (作曲 V. ユーマシス、編曲 石田忠)
- ⑰A列車で行こう (作曲 B. ストレイホーン、編曲 一井伸介)
- ⑱ハリーポッターと賢者の石 (作曲 J. ウィリアムス、編曲 高坂勝)
- ⑲夜のタンゴ (作曲 O. ボルグマン、編曲 小胎剛)
- ⑳カミニート (作曲 J. D. フィリベルト、編曲 小胎剛)
- ㉑トップ・オブ・ザ・ワールド (作曲 R. カーペンター、編曲 加藤繁雄)

- 1st 塚野研一 (パートリーダー)、岡稔、小島信之、志村知子、曾根紀久、中村功、菫澤勝子
藤本久美子、山口瑞代
- 2nd 高坂勝 (パートリーダー)、志村和彦、諏訪サチ子、高橋正樹、東郷安弘
鳥山利晴、村井教夫、森田義秀
- 3rd 内藤悟 (パートリーダー)、一井伸介 (コンサートマスター)、黒瀬由紀子、武村順子
玉木勝治、鍋谷英明 (代表)、油谷由美子、
- ベース 辻井寿子 フルート 坂井孝之

【ノクターン】アイルランドのピアニスト、ジョン・フィールドが創始し、ショパンがその頂点を形づくったロマンティックな夜の気分を暗示する曲で「夜想曲」といわれています。この曲を佐野正隆が編曲したギター重奏曲です。

【この世の果て】1963年3月アメリカのカントリー歌手スキーター・デイヴィスが歌って大ヒットしたブルージーなラブソングで、特に女性歌手が好んで取り上げる名歌です。

【アレグリアス】原曲はカディス地方（スペイン南部）に古くから伝わる代表的な舞曲で、「喜び」という語源通り、明るく陽気な3拍子の軽快な曲です。楽譜は、伊藤シゲルが日本語用に編集したソロの曲を一井伸介が3重奏に編曲したものを使用しています。

【紫陽花】ギターデュオ、いちむじんの代表曲の1つ。いちむじんのギターの先生であるリサフォン（松井孝行氏）の作曲。子供のころ、高知にあるあじさい街道を、おばあちゃんに手を引かれて歩いた、その時の印象を曲にした、とのこと。美しい曲です。

【サウンド・オブ・ミュージック】60年代に大ヒットしたミュージカル映画で、この中からアルプスの風景を連想させる「主題曲」と「私のお気に入り」を選びました。「私のお気に入り」はマリアが雷をこわがる子供たちに、自分の気に入っていることを思い出すと元気が出るのよ、と教えて歌っている曲です。

【練習曲第11番】不世出の大ギタリスト、アンドレス・セゴビアの為に作曲されたオリジナル・ギター曲「12の練習曲」の中の1曲です。練習曲と題されていますが、ショパンの練習曲に匹敵する音楽的感興をもった作品です。ギターの機能をフルに生かし、この楽器の魂に触れた曲とされています。

【タランタス・イ・タラントス】フラメンコの中にはその地方ですとか、その環境とかで、いろいろリズムがあります。その中でも踊りの伴わない部分と、踊りがついている部分が一緒になっている民謡がありますが、そのうちの一つです。和音が日本人に好まれるので結構演奏する人が多かったのですが、最近はどうでしょうかね？ちなみに、タランタスはリズムカルではなく、タラントスは踊りがついています。イは、そしてという意味です。

【タンゴ・アン・スカイ】フランスのギタリストによって作られたクラシックギター界では比較的新しい曲です。アフリカ生まれの作者の民族性によるものなのか、情熱的で激しい起伏の中にも哀愁漂うメロディが特徴です。曲名の意味は、アン・スカイ＝人工皮革、つまりフランス人が作った「まがいもののタンゴ」というユーモアです。

【ジェルソミーナ】1954年、フェデリコ・フェリーニ監督のイタリア映画「道」の音楽として作曲されました。近年、NHKのTVで何度も放映されています。ニーノ・ロータは、元々クラシック系の作曲家でしたが、映画音楽を数多く作曲しています。

【異邦人】1979年に発売され大ヒットした、久保田早紀さんのデビュー曲。ノスタルジックな詞の世界と、哀愁を漂わせエキゾチックな雰囲気醸し出すメロディーに、彼女の歌声がよくなじみ、圧倒的な支持を受けました。当時カラーテレビのCM曲に使われ、現在も多くのアーティストによってカバーされている名曲です。

【スラブ舞曲第10番】スラヴ舞曲集全16曲の中の1曲です。元々ピアノ連弾曲として作曲されましたが管弦楽にも編曲され、かつてコーヒーのCMにこの曲が使われていました。曲は、A-B-C-A-B という二部形式と三部形式を混合した形式をとり、冒頭の憂愁この上ない旋律が印象的です。

【トゥナイト】 【アメリカ】 ミュージカル「ウエストサイド物語」の代表的な2曲です。【アメリカ】は、最初小さくリズムを刻んで、その後、「タタタ、タタタ、ターターター」という強烈なリズムが一貫して続きます。【トゥナイト】は、ミュージカルの中では、対立する集団の二人の男女が再会し、恋の始まりを確認し合うシーンで歌われます。中間部の流れるような、さわやかなメロディーが心地良く感じることでしょう。

【戦場のメリークリスマス】 1983年、第二次世界大戦をテーマにした映画のサウンドトラックです。終戦後、戦犯としてとらえられた日本人軍曹が、処刑前日のクリスマスの日、かつて捕虜だったローレンスと再会します。別れ際、「メリークリスマス ミスター ローレンス」と笑いかけるラストが印象的です。

【ヴィクトリー】 イギリスから若くして上陸した本格的クラシック演奏者グループ「BOND」がオリジナルを出しています。ユーチューブを覗いてみたら原曲がわかりますが、それを湖南のアンサンブルにアレンジしてみました。彼女たちのようには早くは演奏できませんが、雰囲気が伝われば幸いです。

【二人でお茶を】 1925年のヒットソングで、ヴィセント・ユーマンスがアーヴィング・シーサーの台本に曲付けしたミュージカル「ノー・ノー・ナネット」で使用されました。ジャズのスタンダード・ナンバーで、数多くのカバーが存在します。トミー・ドーシー楽団によるチャチャチャ・バージョンが有名です。

【A列車で行こう】 デューク・エリントン楽団のオープニング曲として有名です。このA列車とはニューヨークのハーレムに通じる地下鉄の通称で、開通を記念して作曲されたものです。演奏は、軽く軽くを徹底したつもりです、メンバーが自ら少しでも楽しんでいれば、それが伝わると思います。

【ハリーポッターと賢者の石】 世界的な大ヒットを遂げたシリーズの第1作目映画「ハリーポッターと賢者の石」で使われた代表的なイメージ曲。映画を知らなくてもその世界に入っていけるほどの誰も体験したことのない「幻想的で不思議と感動に満ちた世界」を見事に表現した映画音楽の巨匠ジョン・ウィリアムズの作品です。

【夜のタンゴ】 ドイツ映画「夜のタンゴ」のテーマ曲として作られたコンチネンタル・タンゴです。1937年という随分以前の曲ですが、日本でも菅原洋一さんがNHK紅白歌合戦で歌うなど、何人もの歌手が日本語の歌詞を付けて歌っているので、それをご存知の方も多いのではないでしょうか。

【カミニート】 世界的にも有名なアルゼンチン・タンゴで題名は「小径」を意味します。この曲も1926年に発表された昔からの曲ですが、「夜のタンゴ」と同様に、日本語の歌詞でのカバーがあります。

【トップ・オブ・ザ・ワールド】 1972年に発表されたカーペンターズの代表曲です。カントリー調で調子がよいため、多くのテレビドラマの主題歌、CMソングに使われてきました。歌詞は、「あなたの愛が私を世界で一番高い所に導いているの」という内容のハッピーソングです。